
4－8．未来こども科

①人財育成目標

幼児期は人格形成の土台を作る大事な時期です。そこに関わる保育者は子どもにとって一番の環境であり、専門性だけでなく人間性が問われます。今後ますます多様化する保育ニーズに対応するため、本科では、保育・幼児教育に関する専門知識を学ぶ授業だけでなく、保育技術を学ぶ「演習授業」、実践力や応用力を身に付ける「ボランティア活動」や「実習」をより多く取り入れ、保育に関する専門知識や技術を基礎として、人間性、豊かな感性や創造力、基礎力・実践力・応用力を備えた保育者育成を目標としています。

また、本科は2年単位制学科として、専門学校と短期大学とのダブルスクール制を導入しています。短期大学での「一般教養・幼稚園教諭免許に関する専門知識・技術」と専門学校での「保育士資格に関する専門知識・技術」及び「基礎力・実践力・応用力」を総合的に身につけ、「短期大学士の学位」と「専門士の称号」、さらには幼稚園教諭2種免許、保育士資格のダブル取得を目指し、多様化する保育現場で活躍できる人材を育てます。

②カリキュラムポリシー（C P）教育課程の編成・実施の方針

【シナリオ1】

近畿大学九州短期大学との併修により、幼稚園教諭に必要な専門的知識を習得する。

【シナリオ2】

指定保育士養成課程における保育士資格に必要な専門的知識を修得する。

【シナリオ3】

社会人、保育者として必要なマナー、国語力、情報処理技術を修得する。

【シナリオ4】

保育者として必要な各分野、領域における保育技術、表現技術、指導技術等スキルを修得する。

【シナリオ5】

幼稚園教諭、保育士としての付加価値を高めるため追加スキルの習得、保育関連資格を取得する。

【シナリオ6】

幼稚園、保育所、認定こども園、児童福祉施設等において、習得した教科全体の知識、技能を基礎として、これらを総合的に実践する応用能力を養う。また、理論と実践との関係について習熟させる。

【シナリオ7】

各学年の学びの成果として、保育におけるさまざまな表現方法の中から、方法や題材を選び、保育現場における表現活動について研究を進め、一つの作品をつくりあげる。

【シナリオ8】

学科全体のカリキュラムの積み上げの結果として、自ら選択したテーマに従って卒業論文を作成する。

③ディプロマポリシー（D P）卒業認定・専門士授与の方針

【知識・技能】

幼稚園教諭及び保育士として必要な、幼児教育・保育に関する専門知識や技術、能力を身に付けている。

短期大学卒業認定科目、幼稚園教諭免許、保育士資格に関わる科目の単位を修得している。

【思考・判断・表現】

未来を担う子どもたちに関わる保育者として、社会人としての基礎的な能力、豊かな感性や想像力、人間性を備えている。常に子どもの最善の利益を第一に考えて行動できる。

【関 心・意 欲・態 度】

自分が目指す保育者像を明確にもち、制度やニーズが変化していく中でも、常に自分の目標をもつことができる。

④取得目標資格

資格名・級	主催	受験時期
【1 年次】		
日本語ワープロ検定試験	日本情報処理検定協会	7 月
情報処理技能検定試験 表計算	日本情報処理検定協会	7 月・2 月
【2 年次】		
幼稚園教諭 2 種免許	福岡県教育委員会	卒業時認定
保育士	静岡県知事	卒業時認定
社会福祉主事任用資格	近畿大学九州短期大学	卒業時認定
認定絵本土	国立青少年教育振興機構	卒業時認定
幼児体育指導者検定 2 級	公益財団法人日本幼少年体育協会	

⑤目標とする職業

幼稚園教諭、保育所保育士、認定こども園保育教諭、施設保育士、企業内保育士、進学（大学編入） 他

未来こども科(単位制)「人材目標」育成シナリオ構成図

2024/4/5

目指す業界・職種		業界・企業が求める職業人材ニーズ										
・幼稚園教諭 ・保育所保育士 ・施設保育士 ・企業内保育士 ・認定こども園保育教諭		スキル 人材目標	・常に子どもの最善の利益を第一に考えて行動できる。 ・保育、幼児教育に関する専門的知識や技術を基礎として、人間性、豊かな感性や想像力、基礎力・実践力・応用力を身につけている。 ・自分の目指す保育者像を明確にし、常に自分の目標をもち、主体的に行動できる。 ・子どもの年齢や発達を理解し、保育活動の立案や環境設定が行える。 ・幼稚園教諭、保育士プラスαのスキルを身につけている。				社会人 基礎力目標	・基本的な社会人マナー及び保育者としての基本的マナーを身につけた人 ・保育者として、また周辺業務遂行に必要な文書力、国語力を身につけた人 ・チームで仕事を遂行するコミュニケーション能力を持つ人 ・子ども、保護者、関係職種及び機関等と円滑なコミュニケーションをとり、良好な関係を築くことができる人				
分野／シナリオ	シナリオ別到達目標	1年		2年		3年		1年	2年	3年	合計	習得を目指す 資格・技術・ツール・スキル・成果物
卒業研究	学科全体のカリキュラムの積み上げの結果として、自ら選択したテーマに従って卒業論文を作成する			卒業研究 30		卒業研究 30			30	(30)	30	卒業研究論文及びプレゼンテーション資料の作成 発表
表現発表	各学年の学びの成果として、保育におけるさまざまな表現方法の中から、方法や題材を選び、保育現場における表現活動について研究を進め、一つの作品をつくりあげる	保育総合演習Ⅰ 30		保育総合演習Ⅱ 30				30	30		60	学年またはグループ単位での表現発表
実習分野	幼稚園、保育所、認定こども園、児童福祉施設等において、習得した教科全体の知識、技能を基礎として、これらを総合的に実践する応用能力を養う。また、理論と実践との関係について習熟させる。	実習事前・事後指導Ⅰ 30 保育実習Ⅰ（保育所） 60 教育実習①（幼稚園） 30		実習事前・事後指導Ⅱ 30 保育実習Ⅰ（施設） 60 保育実習Ⅱ（保育所） 60 教育実習②（幼稚園） 90		保育実習Ⅰ（施設） 60 保育実習Ⅱ（保育所） 60 教育実習②（幼稚園） 90 子育て支援実習 60		120	240	(270)	360	保育現場における基礎力 応用力 実践力（判断力） 子ども理解 保育士、幼稚園教諭の業務理解 保育現場における衛生管理及び安全面への配慮 子どもへの言葉かけと適切な援助 保育活動の理解 保育計画の立案と実践 保護者対応 保育記録の記入
保育関連分野	幼稚園教諭、保育士としての付加価値を高めるため追加スキルの習得、保育関連資格を取得する。			こどもと絵本 60		保育スキルアップ講座Ⅰ 60 こどもと絵本 60 保育スキルアップ講座Ⅱ 60 保育スキルアップ講座Ⅲ 60		0	60	(240)	60	※おもちゃインストラクター ※木育インストラクター ※日本幼少年体育協会 幼児体育指導者検定2級 ※リトミック研究センター リトミック指導者資格2級 ※レクリエーションインストラクター ※日本赤十字社 幼児安全法支援員 国立青少年教育振興機構絵本専門士委員会 認定絵本士
保育技術分野 （保育指導分野）	保育者として必要な各分野、領域における保育技術、表現技術、指導技術等スキルを修得する。	実践講座Ⅰ 30 音楽演奏Ⅰ 30		実践講座Ⅱ 60 音楽演奏Ⅱ 30		音楽演奏Ⅲ 60		60	90	(60)	150	造形活動における基本技法の修得と年齢・発達に応じた造形活動の指導技術 児童文化財の製作及び児童文化財を活用した表現技術 身体表現力（子どもの身体発達に応じた指導技術） 保育環境設定スキル 保育現場における伝統行事と文化の理解 ピアノ演奏スキル（バイエル修了程度） 童謡、唱歌等の弾き歌い、楽器の基本的扱い方
保育基礎分野 （教養分野）	社会人、保育者として必要なマナー、国語力、情報処理技術を修得する。	保育基礎講座 30 国語表現 30				みらいリテラシー 60		60	0	(60)	60	保育者として身につけておきたいマナー 国語力（読む・書く・話す） Officeソフトの基本操作及び保育現場における活用
指定保育士科目 分野	指定保育士養成課程における保育士資格に必要な専門的知識を修得する。	指定保育士科目 30 指定保育士科目 60		指定保育士科目 150 指定保育士科目 30 指定保育士科目 60		指定保育士科目 30		90	180	(30)	270	保育士資格
短大併修分野	近畿大学九州短期大学との併修により、幼稚園教諭に必要な専門的知識を習得する	短大連携科目（通信） 420 短大連携科目（スクーリング） 390 短大連携科目（スクーリング） 20		短大連携科目（通信） 210 短大連携科目（通信） 30 短大連携科目（スクーリング） 200 短大連携科目（スクーリング） 30		短大連携科目（通信） 30 短大連携科目（スクーリング） 30		830	470	(60)	1300	短期大学卒業資格 幼稚園教諭2種免許状 社会福祉主事任用資格
						合 計	2年で修了 3年で修了	1190 1020	1100 880	 750	2290 2650	

教育課程及び単位数

未来こども科

課 程			専門課程		単位表示		
学 科			未来こども科		本校 取得 単位数	提携先 短期大学 単位数	指定保育士 養成施設 単位数
科 目			第 1 学年	第 2 学年			
必修科目	一般科目	1 英 会 話 I	30		1	1	1
		2 健 康 科 学	15		1	1	1
		3 日 本 国 憲 法	30		2	2	2
		4 情 報 処 理 入 門 I	15		1	1	1
		5 国 語 表 現	30		2		2
		6 保 育 基 礎 講 座	30		2		
	専門科目	7 幼 児 と 言 葉	30		1	1	1
		8 幼 児 と 人 間 関 係	30		1	1	1
		9 幼 児 と 環 境	30		1	1	1
		10 子 ど も 家 庭 福 祉		30	2	2	2
		11 社 会 福 祉	30		2	2	2
		12 教 育 原 理	30		2	2	2
		13 保 育 原 理		30	2	2	2
		14 幼 児 の 心 理 学	15		1	1	1
		15 造 形 表 現 (指 導 法)	30		1	1	1
		16 保 育 の 心 理 学		30	2		2
		17 子 ども 家 庭 支 援 の 心 理 学		30	2		2
		18 子 ども 家 庭 支 援 論		30	2	2	2
		19 幼 児 へ の 特 別 な 支 援		30	1	1	1
		20 子 ども の 保 健		30	2	2	2
		21 子 ども の 食 と 栄 養		30	1	1	1
		22 社 会 的 養 護 I	30		2	2	2
		23 乳 児 保 育 I		30	2		2
		24 乳 児 保 育 II (演 習)		30	1		1
		25 保 育 の 計 画 と 評 価	30		2	2	2
		26 保 育 内 容 総 論	30		1		1
		27 教 育 方 法 論	30		2	2	2
		28 保 育 者 論	30		2	2	2
		29 教 育 相 談		30	2	2	2
		30 児 童 文 化	15		1	1	1
		31 保 育 実 践 演 習		30	1	1	1
		32 子 ども の 健 康 と 安 全 (演 習)		30	1		1
		33 保 育 実 習 指 導 I (保 育 所)	30		1		1
		34 保 育 実 習 指 導 I (施 設)	30		1		1
		35 保 育 実 習 I (保 育)	60		2		2
		36 保 育 実 習 I (施 設)		60	2		2
		37 保 育 実 習 指 導 II (演 習)		30	1		1
		38 保 育 実 習 II		60	2		2
		39 実 習 事 前 ・ 事 後 指 導 I	30		2		
		40 実 習 事 前 ・ 事 後 指 導 II		30	2		
		41 音 楽 演 奏 I	30		1		
		42 音 楽 演 奏 II		30	1		
		43 実 践 講 座 I	30		1		
		44 実 践 講 座 II		60	2		
		45 こ ど も と 絵 本		60	4		4
		46 保 育 総 合 演 習 I	30		1		
		47 保 育 総 合 演 習 II		30	1		
		48 卒 業 研 究		30	1		
		スクーリング科目	440	320	26	26	20
		必須科目 単位数合計	1,190	1,100	100	62	80
自由選択科目	49 み ら い リ テ ラ シ ー	60	60	2			
	50 保 育 ス キ ル ア ッ プ 講 座 I	60	60	2			
	51 保 育 ス キ ル ア ッ プ 講 座 II	60	60	2			
	52 保 育 ス キ ル ア ッ プ 講 座 III	60	60	2			
	53 音 楽 演 奏 III	60	60	2			
	54 子 育 て 支 援 実 習	60	60	2			
自由選択科目 単位数合計			360	360	12		
年間授業日数			180	180			

- 本科は単位制による専門課程を履修し、必須科目の全て100単位の取得を卒業の要件とする。
- 提携先短期大学の卒業要件ならびに幼稚園教諭2種免許取得要件・・・必須科目62単位の取得
- スクーリング科目は、別表(1-2)に基づき、理事長が認めた提携先に在籍して履修するものとし、本校の卒業に必要な単位に換算するものとする。
- 指定保育士養成施設における保育士資格取得要件・・・必須科目69単位の取得

スクーリング科目教育課程及び単位数

未来こども科

課 程			専門課程		単位表示		
学 科			未来こども科		本校 取得 単位数	提携先 短期大学 単位数	指定保育士 養成施設 単位数
科 目			第1学年	第2学年			
専 門 科 目	1	英 会 話 I S	30		1	1	1
	2	生 涯 ス ポ ー ツ S	30		1	1	1
	3	情 報 処 理 入 門 I S	30		1	1	1
	4	幼 児 と 音 楽 表 現 S	30		1	1	1
	5	音 楽 表 現 技 術 S		20	1	1	
	6	幼 児 と 造 形 表 現 S		30	1	1	1
	7	子 ど も の 理 解 と 援 助 S	30		1	1	1
	8	健 康 (指 導 法) S	30		1	1	1
	9	人 間 関 係 (指 導 法) S	30		1	1	1
	10	幼 児 と 健 康 S		30	1	1	1
	11	環 境 (指 導 法) S	30		1	1	1
	12	言 葉 (指 導 法) S	30		1	1	1
	13	造 形 表 現 (指 導 法) S	30		1	1	1
	14	障 害 児 保 育 S		30	1	1	1
	15	子 ど も の 食 と 栄 養 S		30	1	1	1
	16	社 会 的 養 護 II S		30	1	1	1
	17	音 楽 表 現 (指 導 法) S	30		1	1	1
	18	劇 あ そ び (指 導 法) S	30		1	1	1
	19	子 育 て 支 援 S		30	1	1	1
	20	児 童 文 化 S	30		1	1	1
	21	保 育 実 践 演 習 S		30	1	1	1
	22	教 育 実 習 事 前 事 後 指 導 S	20		1	1	
	23	教 育 実 習 ① S	30		1	1	
	24	教 育 実 習 ② S		90	3	3	
スクーリング科目単位数合計			440	320	26	26	20

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 未来こども科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			英会話 I	日常生活の中でよく使われる英語表現、特に、保育の現場で必要となる英語を学び、4 技能をバランスよく学習し、身近な英語表現を知ることによって英語力を高める。	1	30	1		○		○			○	
○			健康科学	健康維持や体力向上に対するスポーツ活動のもつ教育的意義、「生涯スポーツ」や「Sportsforall」の理念を理解する。	1	15	1	○			○			○	
○			日本国憲法	憲法が求めている理念とは何か、現実社会との間にどのようなギャップがあるかを見つめながら、憲法問題に対するリーガルマインドを養っていくことを目標とする。	1	30	2	○			○			○	
○			情報処理入門 I	IT企業でシステム開発やOffice製品を用いて業務に携わった勤務実績のある教員が指導する。コンピュータの基本用語を理解した上で、情報の意味とコンピュータの発達過程、ハードウェア／ソフトウェアについて学ぶ。	1	15	1	○			○			○	
○			国語表現	保育者、社会人として必要な国語力（読む・書く・話す・聴く）を学習する。基本的な文章表現のルールを理解し、言葉を用いて豊かに表現したり、理解したりする能力を身につける。	1	30	2	○			○			○	
○			保育基礎講座	保育者は、あいさつ、言葉遣い、コミュニケーション能力、危機管理など、職業上、社会生活において極めて常識的な事柄が必要とされる。講義を通して保育者として、社会人として必要なマナーを身につける。	1	30	2	○			○			○	○
○			幼児と言葉	幼稚園教諭及び保育所保育士の経験がある教員が指導する。領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために専門的事項に関する知識を身に付ける。	1	30	1		○		○			○	
○			幼児と人間関係	現在、幼稚園園長として幼児教育に携わる教員が指導する。領域「人間関係」に関する知識の習得、子ども個人の成長と、仲間集団の成長との双方に配慮しながら具体的な指導を行う実践力の基礎を培う。	1	30	1	△	○		○			○	
○			幼児と環境	認定こども園保育教諭の経験がある教員が指導する。領域「環境」のねらいと内容を理解する。また、「環境とかかわる力」の発達について理解する。自然環境や社会環境などの具体的な体験を重視した保育を設定し、実践的に指導する力を養う。	1	30	1	△	○		○			○	
○			子ども家庭福祉	現在、認定こども園園長として保育に携わる教員が指導する。保育者として子どもの最善の利益を図るための基礎的な知識を習得し、子ども家庭福祉の課題について総括的に考察できる力を養う。	2	30	2	○			○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			社会福祉	社会福祉士として社会福祉事業に携わる教員が指導する。少子高齢化、経済社会状況の変化等、現代社会における社会福祉の全体像を理解し、「自立支援」に焦点をおいた社会福祉施策の展開、具体的・個別的な実践を学ぶ。また、児童福祉分野における自立支援、子育て支援の方法について考える。	1	30	2	○			○			○		
○			教育原理	公立幼稚園の園長経験がある教員が指導する。教育の本質・意義・目的・機能、子ども家庭福祉等との関わりを理解し、教育に関する基本的な概念と知識の習得を図ることを目標とする。	1	30	2	○			○				○	
○			保育原理	元保育園園長の経験がある教員が指導する。保育の意義、保育所保育指針における保育の基本、乳幼児の特性や保育の思想・制度の発達などを理解し、保育に関する基本的な知識を学習する。	2	30	2	○			○		○			
○			幼児の心理学	心理学の知識を学び、人はどのように学習を行っていくのか、どのように人間関係を築いていくのかということを心理学の視点から考える。また、心理学における様々な研究から得られた知見を学ぶことで、保育の実際の中で工夫や援助ができるようになることを目指す。	1	15	1	○			○				○	
○			造形表現 (指導法)	乳幼児の造形の発達に関する内容や実践的な表現活動内容の研究を行い、幼児の造形活動に対して適切な援助と教育を行える能力の養成を目標とする。	1	30	1		○		○				○	
○			保育の心理学	臨床心理士として教育機関などでカウンセリングに携わる教員が指導する。保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性に即した援助、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。	2	30	2	○			○				○	
○			子ども家庭支援 の心理学	公認心理師・臨床発達心理士として児童養護施設や障害児入所施設で心理的ケアに携わる教員が指導する。生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。また、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。	2	30	2	○			○				○	
○			子ども家庭 支援論	保育所保育士及び認定こども園保育教諭、社会福祉協議会相談員の経験がある教員が指導する。子育て家庭に対する支援の意義・目的、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本を理解する。また、家庭支援の現状や課題についても学ぶ。	2	30	2	○			○				○	
○			幼児への 特別な支援	福祉型障害児入所施設の施設長として障害児保育携わる教員が指導する。インクルーシブ教育を含む特別支援教育に関する理念や制度の仕組みを学習し、特別の支援を必要とする幼児（知的障害・発達障害・肢体不自由・視覚障害・聴覚障害等）の心身の発達、心理的特性、学習の過程を理解する。	2	30	1		○		○				○	
○			子どもの保健	保健師として保健医療に携わる教員が指導する。子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義、身体的な発育・発達と保健、子どもの心身の健康状態とその把握方法等を理解する。また、子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携の下での適切な対応を学ぶ。	2	30	2	○			○			○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			子どもの食と栄養	管理栄養士として病院への勤務経験がある教員が指導する。小児の発育・発達特性、栄養に関する知識をふまえ、小児期における心身の発達段階に応じた栄養法、集団給食、食教育の重要性を理解することを目標とする。	2	30	1		○		○			○	
○			社会的養護 I	児童養護施設施設長として施設養護に携わる教員が指導する。現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷、子どもの人権を踏まえた社会的養護の基本を理解する。また、社会的養護の制度や実施体系、対象や形態、関係する専門職種、現状と課題について学ぶ。	1	30	2	○			○			○	
○			乳児保育 I	助産師として乳幼児保健・医療に携わる教員が指導する。乳児保育の意義と目的、歴史の変遷及び役割、保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。3歳児未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制、職員間や保護者、関係機関等の連携について学ぶ。	2	30	2	○			○			○	
○			乳児保育 II (演習)	助産師として乳幼児保健・医療に携わる教員が指導する。3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの方について学び、養護及び教育の一体性を踏まえた子どもの生活や遊び、保育の方法や環境、配慮について理解する。	2	30	1		○		○			○	
○			保育の計画と評価	幼稚園教諭として幼児教育に携わる教員が指導する。保育の計画と評価の基本を学び、全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。また、子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体構造を捉え、理解をする。	1	30	2	○			○			○	
○			保育内容総論	保育所園長として保育所保育に携わる教員が指導する。保育所保育の子どもを育ちをめぐる現状と課題、保育所保育の役割、環境を通して行う保育、保育における遊びの位置づけなどの基本原理を理解する。また、指導計画を立案する。	1	30	1		○		○			○	
○			教育方法論	保育所園長として保育所保育に携わる教員が指導する。教育の方法に関する理論的知識を学び、幼児期の教育の方法に関する基本原理を理解する。また、これらを踏まえた保育現場における実践を構想できる。	1	30	2	○			○			○	
○			保育者論	公立幼稚園の園長経験がある教員が指導する。保育職の意義や役割、職務内容、倫理などの基本を学び、保育者に何が求められているのか、保育者として社会の期待に応えるためにはどのような努力をする必要があるのかを考えることから、保育という仕事を遂行していくための能力を形成することを目標とする。また、保育者の資質向上とキャリア形成について理解を深める。	1	30	2	○			○			○	
○			教育相談	公立小学校のスクールカウンセラー業務に携わる教員が指導する。幼児理解の意義・方法について理解し、幼児理解（個と集団）と発達・学びとの関連性を理解する。幼児期における教育相談の意義を理解し、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解する。また、カウンセリングマインドの必要性を理解し、カウンセリングの基礎的な態度・技法を学び、これらを生かした保護者への子育て支援に関して理解する。	2	30	2	○			○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			児童文化	幼稚園教諭及び保育所保育士の経験がある教員が指導する。児童文化の重要性を十分に認識した上で、実習を行い、児童文化の分野の実践的な指導ができるようになることを目標とする。	1	15	1	○			○			○	
○			保育実践演習	幼稚園教諭及び保育所保育士の経験がある教員が指導する。自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能の習得を確認し、保育者として必要なコミュニケーション能力を習得し、使命感と職務内容について理解する。	2	30	1		○		○			○	
○			子どもの健康と安全（演習）	保健師として保健医療に携わる教員が指導する。保健的観点を踏まえた保育環境及び援助、保育における健康及び安全管理、子どもの体調不良等に対する適切な対応、感染症対策、子どもの発達や状態等に即した適切な対応等を学ぶ。	2	30	1		○		○			○	
○			保育実習指導Ⅰ（保育所）	保育所園長経験がある教員が指導する。保育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作る。特に指導計画書の作成や実習日誌の書き方等にかかわる知識と技能を身につける。	1	30	1		○		○			○	
○			保育実習指導Ⅰ（施設）	保育実習（施設）の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作る。特に指導計画書の作成や実習日誌の書き方等にかかわる知識と技能を身につける。	1	30	1		○		○			○	
○			保育実習Ⅰ（保育）	保育所保育士の経験がある教員が指導する。これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのように繋がるのか理解する。また、保育の技術や、能力を向上させ、保育観や子ども観を深める。	1	60	2			○		○		○	
○			保育実習Ⅰ（施設）	施設保育士としての経験がある教員が指導する。施設現場で養護と療育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのように繋がるのか理解する。また、保育の技術や、能力を向上させ、保育観や子ども観を深める。	2	60	2			○		○		○	
○			保育実習指導Ⅱ（演習）	保育所保育士の経験がある教員が指導する。「保育実習事前事後指導」「保育実習（保育所）」、その他の教科で学習した内容を基盤に、保育所の理解、子どもや家庭について理解を深める。指導計画の作成や記録など実践力を養う。	2	30	1		○		○			○	
○			保育実習Ⅱ	保育所保育士の経験がある教員が指導する。保育実習Ⅰ（保育）を通して学んだ技術と理論を基礎として、保育士として必要な資質・能力・技術を向上させる。また、子育て支援についても学ぶ。	2	60	2			○		○		○	
○			実習事前・事後指導Ⅰ	幼稚園教諭及び保育所保育士の経験がある教員が指導する。実習の意義・目的を理解し、実習中の自らの課題を明確にする。実習の事後指導を通じて、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。	1	30	2	○			○			○	
○			実習事前・事後指導Ⅱ	幼稚園教諭及び保育所保育士の経験がある教員が指導する。実習事前・事後指導Ⅰに引き続き、実習中の自らの課題を明確にする。実習の事後指導を通じて、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。	2	30	2	○			○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			音楽演奏Ⅰ	保育者として必要な音楽技術の習得や資質の向上を目指す。特に基本的な音楽理論を理解するとともに、弾き歌いに必要となる鍵盤楽器の基礎を身につける。	1	30	1		○		○		○		
○			音楽演奏Ⅱ	音楽演奏Ⅰに引き続き、保育者として必要な音楽技術の習得や資質の向上を目指し学習する。特に基本的な音楽理論を理解するとともに、弾き歌いに必要となる鍵盤楽器の基礎を身につける。	2	30	1		○		○		○		
○			実践講座Ⅰ	幼稚園教諭、保育士の経験がある教員が指導する。季節の歌や語り継がれる童謡、手遊び、リズム表現等の保育技術を学ぶ。また、保育現場で必要な造形表現技術、児童文化財の製作から実践について学ぶ。	1	30	1		○		○		○		
○			実践講座Ⅱ	保育所保育士の経験がある教員が指導する。実践講座Ⅰに引き続き、季節の歌や語り継がれる童謡、手遊び、リズム表現等の保育技術を学ぶ。また、保育現場で必要な造形表現技術、児童文化財の製作から実践について学ぶ。	2	60	2		○		○		○		
○			こどもと絵本	保育所園長、図書館司書等の経験がある教員が指導する。絵本を通じて集中力・理解力・人間関係など様々な力が育まれるよう、子どもと絵本の関わり方を学習する。また、絵本に関する知識、技能、感性を学び、絵本の選択力、指導力、表現力、コミュニケーション力を身につける。	2	60	4	○			○		○	○	
○			保育総合演習Ⅰ	保育における様々な表現方法を学び、保育現場における表現活動について研究する。また、表現における技術や知識を身につけ、感性を豊かにする。	1	30	1		○		○		○		
○			保育総合演習Ⅱ	保育における様々な表現方法を学び、保育現場における表現活動について研究する。また、表現における技術や知識を身につけ、感性を豊かにする。	2	30	1		○		○		○		
○			卒業研究	幼稚園教諭及び保育所保育士の経験がある教員が指導する。これまでの学習を通して、さらに学びたいと考えている事柄について自ら研究を深め、専門分野の知識を高める。研究物のまとめ方などの手法を学び、自分の考えを分かりやすく表現することを経験する。	2	30	1		○		○		○		
		○	みらいリテラシー	一般企業でOffice製品を用いて業務に携わった勤務実績のある教員が指導する。保育者として必要となるITスキル（Word・Excel・Powerpoint）の基礎から応用を学ぶ。Windowsの基本操作及びファイルの操作、Word、Excel、Accessなどを使ってビジネスアプリケーションを学習する。	毎年	60	2		○		○		○		
		○	保育スキルアップ講座Ⅰ	幼稚園教諭及び保育所保育士の経験がある教員が指導する。実践講座Ⅰ・Ⅱで学んだことを基礎として、季節の歌や語り継がれる童謡、手遊び、リズム表現等の保育技術を学ぶ。また、保育現場で必要な造形表現技術、児童文化財の製作から実践について学ぶ。	毎年	60	2		○		○		○		
		○	保育スキルアップ講座Ⅱ	幼稚園教諭及び保育所保育士の経験がある教員が指導する。「環境を通して行われる保育」における保育環境設定について学ぶ。また、様々な自然体験活動を通して、自然への関心や理解を深める。	毎年	60	2		○		○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等 との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
		○	保育スキルアップ 講座Ⅲ	保育者、社会人として必要な国語力や保育記録等を記入する上での基本的な文章表現のルールを理解し、言葉を用いて豊かに表現したり、理解したりする能力を身につける。	毎年	60	2		○		○		○		
		○	音楽演奏Ⅲ	音楽演奏Ⅰ・Ⅱおよび２年次までの音楽関連の講義を基礎として、保育者として必要な音楽技術の習得や資質の向上を目指し学習する。特に基本的な音楽理論を理解するとともに、弾き歌いに必要となる鍵盤楽器の基礎を身につける。	毎年	60	2		○		○		○		
		○	子育て支援実習	地域の保育所、子育て広場等において、実際に乳幼児と触れ合い体験を通して、乳幼児の理解、保護者支援等の方法を実践に学ぶ。	毎年	60	2		○	△		○	○		
○			英会話ⅠS	英語による会話に馴染み、簡単な自己紹介を書いたり、話したりすることができる。また、日常生活において使用される単語や表現を理解し、基本的な英文法を理解して全体的に会話を高めることを目標とする。	1	30	1		○		○			○	
○			生涯スポーツS	大学においてスポーツ関連科目を担当し、スポーツの研究を行っている教員が指導する。幼児期及び青年期における運動・スポーツの意義や果たすべき役割を理解し、子どもや障がい者を対象とした運動・スポーツ活動に関する基礎的な技能を習得する。運動・スポーツ活動のレパートリーを増やすことを目標とする。	1	30	1		○	△	○			○	
○			情報処理 入門ⅠS	IT企業でシステム開発やOffice製品を用いて業務に携わった勤務実績のある教員が指導する。コンピュータの基本用語を理解した上で、利用頻度の高い事務系ソフトの基礎的な利活用方法を、演習を通して習得する。	1	30	1		○		○			○	
○			幼児と 音楽表現S	発声法、表現法、基礎的な演奏を理解し、技術の向上を目指す。また、基礎的な楽典を理解し、保育現場で必要な弾き歌い曲のレパートリーを増やし、歌い示することができる。	1	30	1		○		○			○	
○			音楽表現技術S	子どもに歌い聴かせるための声楽の基礎を学ぶとともに、基本的な音楽理論を理解するとともに、弾き歌いに必要となる鍵盤楽器の基礎を身につける。	2	20	1		○		○			○	
○			幼児と 造形表現S	幼児画の発達過程と特徴の理解を深め、幼児期の発達に適した創作活動の援助について学ぶ。また、身近な素材を使った美術表現技法体験による基礎技法の習得し、技法体験作品を素材としたオリジナル作品制作、完成作品の発表を行う。	2	30	1		○		○			○	
○			子どもの理解と 援助S	発達論、学習論の基礎的知識を修得し、子どもの生活を理論的に捉え、子どもの学びと探求を十分に展開させるため、保育者としての基本的な態度の基礎を学ぶ。	1	30	1		○		○			○	
○			健康 (指導法) S	幼稚園教諭、保育所園長の経験がある教員が指導する。保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領に示される「ねらい」「内容」などの「健康」領域の構造を理解する。「健康」に関する保育内容及び方法を実践的に学び、基礎的な知識・技能を獲得する。	1	30	1		○		○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			人間関係 (指導法) S	現在、幼稚園園長として幼児教育に携わる教員が指導する。領域「人間関係」に関する教育・保育内容及び指導に関する知識・技術を習得する。また、子どもの発達を領域「人間関係」の観点で捉え、子どもの理解を深める。	1	30	1		○		○			○	
○			幼児と健康S	運動あそびのもつ教育的意義を学び、各種の運動あそびを素材とした短期の指導計画を作成する。また、運動あそびの「ねらい」を実現するために必要な効果的な指導技術を習得する。	2	30	1		○		○			○	
○			環境 (指導法) S	保育所保育士の経験がある教員が指導する。子どもたちに影響を与える環境の現状・問題について理解し、子どもたちが生きる力を培うための保育の工夫、自然体験・社会体験など具体的生活体験を重視した保育を自ら設定できるようになる。	1	30	1		○		○			○	
○			言葉 (指導法) S	幼稚園教諭及び保育所保育士の経験がある教員が指導する。人間にとつての言葉（言語）の役割・言語獲得の理論、子どもの言葉を育む適切な環境を理解する。保育内容「言葉」を理解し、保育者としての子どもとの関わり方を身につける。	1	30	1		○		○		○		
○			造形表現 (指導法) S	幼児画の発達過程と特徴の理解を深め、幼児期の発達に適した創作活動の援助について学ぶ。また、身近な素材を使った美術表現技法体験による基礎技法の習得し、技法体験作品を素材としたオリジナル作品制作、完成作品の発表を行う。	1	30	1		○		○			○	
○			障害児保育S	福祉型障害児入所施設の施設長として障害児保育に携わる教員が指導する。障害児保育の対象となる障がいの特徴について理解し、障害児保育の実際や保護者支援に関する基礎的な知識を習得する。	2	30	1		○		○			○	
○			子どもの食と 栄養S	管理栄養士として病院への勤務経験がある教員が指導する。子どもの食と栄養で学んだことを基礎とし、保育者として小児に適切な食事を提供できるよう、各時期の特性や栄養について理解し、調理技能の習得を目指す。	2	30	1		○		○			○	
○			社会的養護 II S	児童養護施設施設長として施設養護に携わる教員が指導する子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容、施設養護及び家庭養護の実際について理解する。また、社会的養護における計画・記録・自己評価の実際、子どもの虐待防止と家庭支援について理解する。	2	30	1		○		○			○	
○			音楽表現 (指導法) S	領域「表現」に関する「ねらい」「内容」を理解し、子どもの音楽表現活動に関する基本的知識及び指導・援助に関する知識・技能を習得する。	1	30	1		○		○		○		
○			劇あそび (指導法) S	幼稚園教諭、保育所園長の経験がある教員が指導する。領域「表現」のねらいと内容について理解する。子どもの発達に即した遊びの過程を理解し、どのような援助が必要かを考える力、子どもの表現を育てる実践力や指導法を身につける。	1	30	1		○		○		○		
○			子育て支援S	現在、保育所園長として保育所保育に携わる教員が指導する。子育て支援・相談援助活動の基礎を習得し、援助展開における援助関係の形成、援助過程や各技術を効果的に活用するための理論と方法を学ぶ。また保育士の行う子育て支援について実践事例を通して具体的に理解する。	2	30	1		○		○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等 との 連携
必修	選択必修	自由選択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			児童文化S	児幼稚園教諭及び保育所保育士の経験がある教員が指導する。童文化の重要性を十分に認識し、内容を把握し、実習を行い、児童文化の分野の実践的な指導ができるようになることを目標とする。製作実習、児童文化財を使用した演習（部分実習）を行う。	1	30	1		○		○		○		
○			保育実践演習S	幼稚園教諭及び保育所保育士の経験がある教員が指導する。自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能の習得を確認し、保育者として必要なコミュニケーション能力を習得し、使命感と職務内容について理解する。発表・議論・ロールプレイ、模擬保育などを組み合わせて行う。	2	30	1		○		○		○		
○			教育実習 事前事後指導S	教育実幼稚園教諭及び保育所保育士の経験がある教員が指導する。習に向けた「事前」の心がまえや準備に関する基礎的知識を理解する。観察記録の作成、指導計画の立案方法を理解する。	1	20	1	○	△		○		○		
○			教育実習①S	幼稚園教諭としての経験がある教員が指導する。幼稚園における教育内容や幼稚園機能、幼稚園教諭の職務及び役割について、体験を通して理解する。また、観察記録の作成や部分実習の指導計画を立案することができる。	1	30	1			○		○	○		
○			教育実習②S	幼稚園教諭としての経験がある教員が指導する。教育実習①Sでの経験を踏まえ、幼稚園における教育内容や幼稚園機能、幼稚園教諭の職務及び役割について、体験を通して理解する。また、観察記録の作成や全日実習の指導計画を立案し、実践する。	2	90	3			○		○	○		
合計			78科目		必須科目 2,290単位時間（100単位）										